

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	6	名称	高齢者の生きがい対策の推進			
主担当部	福祉課		主担当課	福祉総務課		部長名	福井和夫
関係部	健康部		関係課	老人福祉センター			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	高齢者が、生涯学習・老人クラブの活動等に参加しやすい環境を作るとともに、そこで学習した成果を発展させる場所・機会の充実を図ります。元気な高齢者が、ボランティア活動等に生きがいを持てるような環境を作ること、高齢者の社会参加を促進します。さらに、市民が様々な世代とのつながりを感じられるよう、世代間の交流の場を管理運営することにより支援します。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	豊富な経験・知識を持つ元気で活動できる高齢者が増加しています。このようなシニア世代のエネルギーを社会貢献につなげることができるような地域活動・文化活動の場となる様々な講座及び各地域における学習活動への支援、成果を発表できる場が求められています。高齢者が生きがいを実感しながら生活の充実・向上につながるよりよい仕組みづくりを進めます。	県においては、高齢者の生きがい活動を支援するための社会参加活動に関する啓発、社会活動振興のための支援、さらに高齢者が気軽に生きがいをもって活動できる環境づくりを行っており、市と協力して施策を推進する関係にある。
これまでの成果	千寿荘等において、各種教養講座を開設してきており、各施設を発表会及び展示会等多様な学習の場として活用し、高齢者が生きがいを実感しながら生活を充実・向上させることにつなげている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	老人クラブ加入者数	3883	4000	3350	3500	4000	4700	
	施策指標② (成果指標)	高齢者大学校受講者数	226	270	231	270	270	270	
	施策指標③ (成果指標)								
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		62,296	64,670	57,087	61,926			
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0			
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	1,574	1,712	1,437	14,595			
	(a) - (b) = 一般財源		60,722	62,958	55,650	47,331			
	正職員	従事者数 (単位:人)	6.50	6.50	6.25	6.30			
		人件費(c)	40,118	42,250	40,625	40,950			
トータルコスト (a) + (c)		102,414	106,920	97,712	102,876				

## 5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	高齢者の生きがい対策として、生きがいづくりや文化活動の場の提供に関しては、利用者も増加しており、効果を上げている。老人クラブ活動の支援に関しては、高齢者が増加しているにもかかわらず、加入者が増えない状況にあり、活性化を講じなければならない。				
	市政全般に対する貢献度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者が生きがいをもって生活することは、心身の健康を保持するためにも重要なことであり、その意味で高齢者福祉の増進のため大きな貢献をしている。				

## 6. 施策の課題

この施策の課題	高齢者の生きがい対策事業のうち、高齢者生きがい事業は、老人クラブの加入者が対象者の増加にもかかわらず、減少しており、活性化を講じることが課題となっている。また、敬老会は年々対象者が増加し、現在の方法では将来的に実施が困難になることが予想されるため、根本的に実施方法を見直すことが課題となっている。
---------	--

## 7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	老人福祉センターについては平成27年度末で閉館予定である。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

## 8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	老人福祉センター管理運営事業については、平成27年度末で閉館予定である為、現状のままで継続する。教養講座事業及び老人生きがい対策事業については、今後益々増大する高齢者の生きがいづくりの一助となるよう、利用者のニーズを勘案した見直しを図りながら継続する。また、高齢者生きがい対策事業については、老人クラブの活性化を検討しながら継続する。
2次評価	説明	

## 9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

### ※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH26決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	福祉総務課	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	A
	高齢者生きがい事業 (ソフト(任意))		7,633 (千円)			
2	福祉総務課	①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚祝賀会を開催 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	B
	敬老事業 (ソフト(任意))		11,611 (千円)			
3	老人福祉センター	市内に居住する60歳以上を対象に日本画・書道・花卉園芸・手芸・陶芸・俳句・川柳・盆栽の8教室による教養講座の開催と、その成果発表を兼ねた作品展の開催により創作意欲と内容の充実を図る。	4 廃止又は休止する	c	廃止又は休止する	D
	老人生きがい対策事業 (ソフト(任意))		2,970 (千円)			
4	老人福祉センター	後退機能の回復を高めるための温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置、また、2階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃えることによりレクリエーションの充実を図っている。	4 廃止又は休止する	b	廃止又は休止する	C
	老人福祉センター管理運営事業 (ソフト(任意))		34,873 (千円)			

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	高齢者生きがい事業									
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	吉村元宏					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進							
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費・高齢福祉事業費									
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度				
	対象	市老人クラブ連合会・生きがい活動団体等			事業の内容説明	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。					
	事業の目的	地域で暮らす高齢者が生きがいをもって暮らせ、明るく活気に満ちた地域社会の実現のため、各高齢者活動団体等へ向けて助成を実施。									
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		高齢者の生きがい活動の充実や地域高齢者の活動助成のため。									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
			説明 補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながる。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	市老人クラブ加盟団体			65	75	58	70	65	65	
	活動指標①	老人クラブ加入者数			3,883	4,000	3,350	3,500	3,300	3,300	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			7,976	8,452	7,633	8,246			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			1,397	1,530	1,260	1,417		
		(a) - (b) = 一般財源			6,579	6,922	6,373	6,829			
正職員		従事者数(単位:人)			0.30	0.30	0.25	0.30			
		人件費(c)			1,852	1,950	1,625	1,950			
トータルコスト(a)+(c)			9,828	10,402	9,258	10,196					
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考 (これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	老人クラブ加盟数及び加入者数ともに減少傾向にあるが、高齢者の老人クラブ加入は、高齢者自身が生きがいを見つける助けとなり、地域社会への活力となっている。音楽療法等の活動は介護予防としての効果を発揮している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	活動をしている団体は地域に根ざしているところが多く、地域と行政のパイプ役として機能している。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながるため難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		補助金額の見直しによる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			補助対象が減少すれば、事務事業も減少。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	敬老事業									
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	吉村元宏					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進							
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費									
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度				
	対象	市内在住75歳以上高齢者・結婚50年夫婦			事業の内容説明	①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚祝賀会を開催 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る					
	事業の目的	高齢者自らが住み慣れた地域社会の中で健康で、安心して生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者の長寿を祝う行事や金婚祝賀会等を実施する。									
	市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		市制発足当時から続けている市の敬老事業であり、敬老のお祝い行事であることから公共性が高いが、高齢者が増加する一方であるため、開催のありかたについて検討を行っている。									
やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
		説明 やめた当初は反響があると思われる。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	敬老会参加者率		19	21	19	20	20	20		
	活動指標①	敬老会参加者		2,477	2,995	2,613	3,000	3,050	3,100		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			11,749	14,342	11,611	13,211			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								13,000
		(a) - (b) = 一般財源			11,749	14,342	11,611	211			
正職員		従事者数(単位:人)			1.00	1.00	0.80	1.20			
		人件費(c)			6,172	6,500	5,200	7,800			
トータルコスト(a)+(c)			17,921	20,842	16,811	21,011					
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考 (これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	市の行事として、認知度は高い。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	敬老会は毎年9月の行事として高齢者に認知はされており、楽しみにしている方が多い。また金婚祝賀会については毎年年度当初から多数の問い合わせがある。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	敬老会の開催内容、記念品送付の年齢や品物選定等を再考することにより、コスト削減を図ることは可能だが、高齢者が増加する一方なので、今までと同一単価となると経費削減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		高齢者が増加する一方であり、この状態が続けば開催場所に入りきらず消防法にも抵触するおそれがある。2日開催等の案もあるが、予算は拡大の一方である。敬老会を続行するなら、開催時間等変更による半日開催や送迎のあり方についての検討を行い、その結果の参加人数を把握をする必要がある。また、健康寿命を延ばすための各課の取り組みを披露してもらうことで、芸能委託料の削減を行うことは可能。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		敬老関連事業を完全になくすことは難しいが、事業内容・開催内容の改善等は可能である。							

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年5月28日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

PLAN  
計画

事務事業名	老人生きがい対策事業						
担当部名	健康部	担当課名	老人福祉センター	課長名	森本 博次		
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち				
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進				
予算事業名	老人生きがい対策事業						
事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度
対象	市内に居住する60歳以上の人			事業の内容説明	市内に居住する60歳以上を対象に日本画・書道・花卉園芸・手芸・陶芸・俳句・川柳・盆栽の8教室による教養講座の開催と、その成果発表を兼ねた作品展の開催により創作意欲と内容の充実を図る。		
事業の目的	市内に居住する高齢者に趣味等の文化活動へ参加する機会を提供することで活動の振興並びに地域住民同士の交流の促進を図り、高齢者が生きがいのある生活を営むことができるように支援する。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
		2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)				
	説明	市内に在住する高齢者の趣味等の文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民同士の交流促進を図り、高齢者の潤いある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図っている。					
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い	
		説明	市内公共施設において無料で利用できる高齢者のレクリエーション施設が無くなるため、高齢者が生きがいを持ち、教養を高める機会が減少する。				

DO  
実施

指標の推移	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	教室受講者数	349	350	344	350		
活動指標①	新規教室募集者数	56	60	38	60		
活動指標②	教室展示会出品者数	330	350	330	350		
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出(直接事業費)(a)		2,929	3,225	2,970	3,233	
	歳入(b)	受益者負担額					
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)					
	(a) - (b) = 一般財源		2,929	3,225	2,970	3,233	
	正職員	従事者数(単位:人)	1.60	1.60	1.60	1.50	
		人件費(c)	9,875	10,400	10,400	9,750	
	トータルコスト(a)+(c)		12,804	13,625	13,370	12,983	
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(受講者数)	37	40	39	37		
備考 (これまでの実績等)							



CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	教養の向上や受講者同士の交流を生きがいとする人も多いが、受講者数は横ばいである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	交流を楽しみ、教養の向上を目的とした高齢者が参加している。意欲的に受講しているが、全体的には新規生が少なく、昨年以前からの継続生がほとんどである。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	以前から経費削減しているため、これ以上の経費削減は望めない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成27年度末をもって事業を廃止する。平成27年度内は現状どおり維持する。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	4	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	老人福祉センターの閉館にともない、事業が廃止される。					

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年5月28日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( ソフト(任意) ) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	老人福祉センター管理運営事業									
	担当部名	健康部	担当課名	老人福祉センター	課長名	森本 博次					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進							
	予算事業名	老人福祉センター管理運営事業費									
	事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度			
	対象	市内に居住する60歳以上の人			事業の 内容説明	後退機能の回復を高めるための温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置、また、2階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃えることによりレクリエーションの充実を図っている。					
	事業の 目的	60歳以上の老人に対する健康の増進、教養の向上、後退機能の回復訓練等により老人が健康で明るい生活を営めるようにする福祉増進を目的とする。									
	市の関与の 必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		老人福祉法第15条第5項の規定に基づき、市内老人に対し健康の増進、教養の向上のための便宜を総合的に供与している。									
やめた 場合の 影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
	説明 市内公共施設において無料の高齢者のレクリエーション施設が無くなり、健康で明るい生活を営む場を得ていただく機会が減少する。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数			97,224	100,000	100,511	100,000			
	活動指標①	団体利用者数			2,586	3,600	2,105	3,600			
	活動指標②	浴場入場者数			94,638	96,400	98,406	96,400			
	コストの 推移  (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			39,642	38,651	34,873	37,236			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			177	182	177			178
		(a) - (b) = 一般財源			39,465	38,469	34,696	37,058			
正職員		従事者数(単位:人)			3.60	3.60	3.60	3.30			
		人件費(c)			22,219	23,400	23,400	21,450			
トータルコスト(a)+(c)			61,861	62,051	58,273	58,686					
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(利用者数)			0.63	0.62	0.57	0.58				
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	1日に約300名の利用があり、温浴施設や館内でのカラオケ等のレクリエーション、囲碁・将棋を通じて、利用者が楽しく充実した生活を過ごせる場になっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	利用者同士の交流で楽しく充実した生活を過ごせる場を提供し、温浴施設や磁気機器の使用で機能回復を図るなど、健康増進に貢献している。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明 以前から経費削減しているため、これ以上の経費削減は見込めない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		当施設は平成27年度末で閉館予定であるため、利用者の安全は十分に確保しながらも最低限の修繕にとどめる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	4	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
				4 廃止又は休止する	5 完了する					
説明		当施設は平成27年度末をもって閉館する。								